

(表)

福岡大城農業協同組合
南筑後普及指導センター

1 小麦の出穂期

小麦の出穂は平年より遅れ、昨年より7～10日遅れました。11月下旬播種の場合、出穂期は次の通りです。

シロガネコムギ 4月16～17日

ミナミノカオリ 4月21～23日

2 赤かび病防除

小麦の防除適期は、出穂期から7～10日後の開花期です。ほ場ごとに開花（白い葯が見える）を十分確認し、適期に防除を行います。散布は、朝夕の風のない時に行います。隣接ほ場に他作物が作付されている場合は、農薬がかからないよう特に注意し、飛散防止に努めて下さい。

| 薬 剤 名 | 10aあたり使用量 | 使用回数など |
|------------|--------------------|----------------------|
| トップジンM粉剤DL | 4kg | 出穂期以降 <u>2回以内</u> |
| トップジンM水和剤 | 1000～1500倍（液量100ℓ） | |
| トップジンMゾル | 1000～1500倍（液量100ℓ） | |
| トップジンMゾル | 8倍（0.8ℓ） | 無人ヘリ防除 |

3 穂揃い期追肥

シロガネコムギで追肥一発肥料を使っていない場合、およびミナミノカオリでは、穂揃い期に10aあたり硫安10kgの追肥を行います。

穂揃い期追肥は、赤かび病防除と同時の尿素葉面散布でも可能です。その場合は10aあたり尿素5kgと農薬を、水100ℓに溶かして散布します。なお葉面散布の場合、葉先や芒が若干枯れますが、登熟への影響はありません。

4 湿害対策

今後の降雨は、被害粒の発生及びタンパク含有率、容積重の低下など品質に大きな影響を及ぼします。ほ場内に水が溜まらないよう排水溝を整備するなど、湿害対策に努めましょう。

5 小麦の成熟期および収穫期目安

気温が平年並で推移した場合、小麦の成熟期は以下の通りになると予想されます。(出穂期以降の平均気温積算による方法で予想)

シロガネコムギ 6月4～5日
ミナミノカオリ 6月9～10日

また、収穫期は以下のようになります。

| 小麦の状態 | 麦粒の水分 | 注意事項 |
|-------------------|---------------|-------------------|
| 成熟期より4日前 | 45% | 収穫には不適當 |
| 成熟期 | 30～35% | コンバイン収穫には不適當 |
| 成熟期より2日後 | 25～30% | コンバイン収穫を始めてよい |
| <u>成熟期より3～4日後</u> | <u>20～25%</u> | <u>コンバイン収穫に適當</u> |
| 成熟期より7～10日後 | 17%以下 | 脱粒等のロスが多く、品質も低下 |

今後の気温次第で、収穫時期は前後します。高温多照となった場合、乾燥が進み、収穫期が早くなるので、早めの収穫準備を心がけて下さい。

6 収穫後の麦わらについて

麦わらは焼却せず、土づくりのために全量すき込みましょう。麦わらは、収穫の際に長めに切断し、浅水で代かき（漉かき）を行うと、田面に浮く量が少なくなります。

今年は小麦の生育が遅れており、小麦の収穫から水稻の田植えまでの期間が短くなると予想されます。

焼却する際は、周囲に十分注意して行って下さい。思わぬ風により収穫前のは場へ飛び火したり、煙による交通障害を起こしたりする恐れがあります。

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう！